

## 第6回平塚市社会教育委員会議要旨

|      |                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 日 時  | 令和7年8月5日（火）15時00分～16時50分                                            |
| 会 場  | 平塚市役所519会議室                                                         |
| 出席委員 | 渡邊委員、小島委員、丸島委員、笹尾委員、國正委員、西郷委員<br>宮路委員、西田委員、飯田委員                     |
| 欠席委員 | 比企委員、鈴木委員                                                           |
| 事務局  | 石川社会教育部長、石塚社会教育課長、鳥居中央公民館長、藤田中央図書館<br>長、小澤美術館長、川端博物館長代理、片野担当長、宮田主事補 |
| 傍聴者  | なし                                                                  |

### 会議要旨

---

#### 1. 議長あいさつ

本日は大変暑い中、会議に出席いただきまして、ありがとうございます。今回は社会教育施設を地域の中でどうやって活用するのかについて考えていきたいと考えています。よろしくお願いします。

#### 2. 議事

##### ○議長

初めに、事務局から今年度の夏の社会教育関係の情報提供をいただきたい。

##### ○事務局

夏季の事業として、子ども向けのイベントが多数開催されている。地区公民館では、ペットボトルロケット打ち上げ体験、親子サイエンス講座手作り線香花火実験、だるま絵付け体験、書道教室、生け花教室などを開催している。

また、利用されていない会議室等を子ども向けに個人の学習スペースとして開放する事業を試験的に行っている。

博物館では、夏期特別展「湘南ロケッティア」とそれに関連する事業が開催されている。

図書館では、映画会、仕掛け絵本教室などを開催し、小・中学生、高校生を対象としたボランティアを募集している。

美術館では、特別展「よみがえる絵画」と子ども向けの関連事業を行っている。また、企画展では平塚市出身の画家である原良介さんの「サギ子とフナ子 光のそばで」を行っている。8月9日からの3日間には、子ども向けワークショップが開催される予定である。

博物館・図書館・美術館の3館コラボ事業として、しらさぎを探して3館を回ると缶バッジをプレゼントするという企画を行っている。

スポーツ課の事業としては、7月に少年野球大会、少年少女水泳大会が開催された。

社会教育課の関連事業としては、県主催の子どもの居場所づくりモデル創出事業があり、湘南ベルマーレスポーツクラブとの連携事業が大神公民館と相模小学校で2日間、コナミスポーツクラブとの連携事業が余熱利用施設で5日間、参加費無料で各日30名程度の定員で開催される。

次に、施設に関することを報告する。図書館は、南図書館が現在工事中で2月から休館している。代替施設としてラスカ平塚の6階にひらつか駅の図書室をオープンしている。当初、1日の利用人数は300人程度だったが、現在は400人から500人程度の利用がある。蔵書数は多くないが、席数は50席程度用意している。南図書館の改修が終わると、中央図書館の改修に入る。

中央公民館は、令和8年の10月から休館することを2月に発表し、3月には市民向け

の説明会を実施した。耐震の問題があり、休館に対して一定程度の御理解はいただいていると感じているが、ホールや会議室が休止となることへの不安の声もいただいている。中央公民館の休館中は地区公民館の利用要件を緩和して活用していただくことを考えている。今後の中央公民館の在り方については、庁内で検討を進めている。また、今年度は松原公民館と金田公民館も改修に入る予定になっており、12月頃から1年4か月程度の休館を予定している。令和9年度にオープン予定である。改修内容としては、エレベーターの新設と設備更新である。

美術館は、令和9年1月から休館し大規模改修を行う予定である。現在設計中のため、詳細については未定だが、雨漏り修繕と設備更新が主な改修内容の予定である。

社会教育部の施設ではないが、元の教育会館、改修後は文化公園会館と命名される予定の施設は、今年度中に工事が終わり来年度4月にリニューアルオープンされる。新しい施設ではエレベーターが新設される。市内には社会教育施設やスポーツ施設を含め、老朽化している施設が多数あり、改修を進めることが課題になっている。施設の休館中には市民の皆様の文化・スポーツ活動が制限されてしまうため、ご迷惑をおかけすることになるが、ご理解していただけるように努める。

○委員

ラスカ内の図書館は大勢に利用されていてとても良い。

○議長

南図書館の今までの利用数とラスカ内の図書館の利用数は同じくらいか。

○事務局

南図書館の規模に比べるとラスカ内の図書館はコンパクトなため、比較することは難しい。

○委員

駅近くにラスカ内の図書館のような施設ができたら良いと思う。

図書館等で中高生のボランティアを募集しているとあったが、現時点でどのくらい応募があったのか知りたい。

○事務局

美術館で8月9日、10日、11日に行う「美術館であそぼう」に関しては、運営補助として中高生を対象にボランティアを募集し、19名の応募があった。事前に顔合わせをしたうえで当日活動してもらう。

○事務局

図書館での中高生のボランティアは、10名程度の応募があった。

○議長

中央公民館の今後の在り方について検討するとあったが、具体的にはどういうことか。

○事務局

中央公民館を休館したあと、ホールをどうするかということに対する検討になる。

## ○事務局

今の施設自体は改修せず、使わないということは決まっている。市民活動の発表の場となるホール機能は必要であると考え、どのように確保するかを検討している。

### (1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

#### ①総会（6月9日）について

事務局から総会にて全ての議案が承認可決された旨、説明した。

#### ②研修会（9月1日）について

事務局から9月1日（月）に開催予定の県社教連研修会の案内をした。

#### ③第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会（11月20日・21日）について

事務局から11月20日（木）、21日（金）に開催予定の社会教育研究大会の案内をした。

### (2) 協議テーマについて

## ○議長

今回は平塚市の持つ社会教育施設のうち、図書館、博物館、美術館について、人材や施設などの有益な資源を地域の中で使っていけるような方策をとれないか検討していきたい。

前回までは、それぞれの施設を見学しながら勉強していただいた。今年度、具体的に提案をまとめるにあたってA4サイズ4ページの報告書を作成することを考えているため、まずはたたき台を作った。これについて説明すると、図の真ん中は地域となっていて、地域は学校、公民館、各種団体の3つで構成されている。今回はこの3つにどのようにして平塚市の社会教育施設を繋げていくかというところを考えたい。社会教育施設3館はそれぞれ連携する。地域の市民活動団体とはボランティアなどとの関わりの中で連携、協働する。地域としては、各館に協力しながら利用させてもらうというイメージで双方向の矢印を使って図を書いた。

図にある学社連携の地域活動には、今までやってきた、あるいは現在やっている地域の事業を挙げる。図書館、博物館、美術館についても、それぞれがやっている事業を挙げる。さらに、地域とそれぞれの施設が今までどのような活動をしてきたのかを挙げていきたい。

このイメージ図について皆様のご意見をいただきたい。

## ○委員

図の真ん中の学校、公民館、各種団体と図書館、博物館、美術館との矢印に協力と利用とあるが、それぞれの矢印の向きが逆ではないのか。

例えば、図書館との間であれば、図書館が学校、公民館、各種団体を利用するという事ではないだろう。

## ○副議長

最初はそこをどう理解したらいいのかと思ったが、地域主体の図なので、地域が利用する、協力するという意味だと思う。矢印の向きは逆でも良いのかもしれない。

## ○議長

矢印を双方向にしたほうが分かりやすいか。

## ○委員

中心にある学校、公民館、各種団体というのは、人間のことを指しているはずだが、建

物のような感じがしてしまう。

○議長

学校、公民館も一つの機関であり、各種団体もそういった意味では機関である。

○委員

人間の存在が見えないように感じる。

○議長

地域もいろいろな繋がりの中でそれを細かく分ければ個人ということにもなるのかもしれないが、個人で何かをするというわけではない。

○委員

いろいろな社会教育施設との間で様々な活動を行っているという主体は人間なのではないか。そのあたりがうまく表現できるといいのではないか。

○委員

地域ではなく、市民などに表現を変えるといいのではないか。

地域と聞くとグループのようなイメージが強くあり、誰でもがという意味では市民という表現のほうが適しているのではないか。

○議長

個々の市民ではなく、地域というかたまりが社会教育施設をどう利用していくのかを考えたい。これまでも、地域がどうあるべきか、地域の中で子どもたちをどう育てていくかという視点から始まっているので、個々の市民が図書館、美術館、博物館の3館をどう使うかという話ではない。

○委員

ここに書かれている図は未来の図か。

○議長

未来の図ではなく、現在の図である。

○副議長

矢印を未来に向かって太くしていくというイメージで良いか。

○議長

例えば、個別の事例として、地域で夏休みに星空見学会をやろうというときに、公民館や青少年指導員に協力してもらい学校を使用して開催するとする。このようなときに、星を見るための望遠鏡や星の説明を学芸員にってもらうために博物館に協力してもらう必要がある。このようなことが、地域が施設を利用するというイメージだと言える。

○委員

先日、公民館長研修があり、旭南公民館と横内公民館に行った。それぞれが抱えている課題について話したが、横内公民館の主事から、青少年指導員が核となって色々な活動を行っているという話があった。そのような、青少年指導員や体育振興連絡協議会、子ども

会育成連絡協議会などの団体と繋がりをもつという意味もこの図は持っているのか。

○議長

図にある地域とは、必ずしも公民館、学校、各種団体すべてが連携している事業ということではなく、学校と各種団体がコミュニティ・スクールをやっている事例もあるし、公民館と各種団体で行っている事業もある。そのようなものも含めて、それぞれが連携せずとも単独で事業を企画したときに、図書館、美術館、博物館とのつながりを図に表している。

○委員

平塚市が持っている社会教育施設は様々な資源や知恵を持っており、それを有効に活用してより強い繋がりを持たせることを目的とするということと合っているか。

○議長

例えば、図の協力というところは、地域は施設を利用するばかりだと思われるかもしれないが、現在図書館で行っている子どもたちで地域の地図を作るという企画で作成したものや生き物調査の成果をデジタルアーカイブすれば社会教育資源になると思う。これは、地域でやったからこそその成果が挙げられる。つまり、協力することによって資源が一つ増えたと言える。一方的な利用のみではなく、成果が戻ってくるという意味で、図に矢印を使って表した。

○副議長

そのような説明があると分かりやすい。どこか報告書の最初などにそのような説明があると良いと思う。このような課題があり、このようなテーマを掲げ、施設を地域で有効活用し、その活用した成果がそれぞれの館の資源になるといった説明をいれると良い。

○議長

図の周りにある図書館、博物館、美術館の説明書きは、現在はそれぞれの館の事業をまとめているが、そうではなく地域から何か依頼されて行った事業について書くとイメージしやすくなるか。

○委員

この図には、地域を中心に活用した事例と、成果として学びがあったことが書かれていると思うので、「学び」という言葉がどこかに入っているといいと思う。それがあって、施設の活用が学びに繋がっているということが分かりやすくなると思う。

また、地域団体や公民館を繋げていく人が大事になると考えられるが、社会教育士の資格を持っている人のネットワークがないことが課題ではないか。そういう人たちを活用することができると良いと思う。

○議長

以前は、地域コーディネーターをそれぞれの公民館に配置しようという動きもあったが難しかった。

○事務局

現在はそういった動きはないが、以前、社会教育主事講習の中で公民館には地域のコーディネーターの役割が求められているという内容があった。

○委員

学校の先生や企業でも社会教育士の資格を持っている人がいる。せっかく資格を持っていても一人だけでは難しいこともあるため、ネットワークができると良いと感じた。

○議長

公民館でも人材派遣をやっているところもある。

○委員

そういったことではなく、社会教育士の資格を持っている人のネットワークがあると、地域の繋がりにも活かせると思った。

○議長

そういった資格を持った人たちに運営協議会に入ってもらうのも良い。そのためには、ある程度地域で活動していないといけない。

図にある地域の核の中に、社会教育士が入ってコーディネートしてもらうのが良いと思う。しかし、現在は公民館長がそういった役割を担っている。

また、コーディネートも社会教育施設だけではなく地域の福祉、防災、防犯との繋がりも出てくる。そのため、実際にコーディネートしようとするとかかなり膨大な仕事量になってしまう。現在は公民館が中心になって地域の活動を行っている。

○委員

文科省が社会教育士から地域に広げると言っていた。

○議長

図の各種団体の欄に具体的に社会教育士などと記載することを検討する。

○委員

図について、どの矢印も大事ではあるが、先ほど話があったように未来に向けて矢印を太くしていくうえで、特にどの矢印を一番太くしていきたいのかを考えるのも良いのではないか。

○議長

全ての矢印を太くすることが理想であるが、今回まとめるにあたっては、地域とそれぞれの施設との矢印を太くするために考えていきたい。

○事務局

社会教育施設の3館である図書館、博物館、美術館の特徴として、学芸員や司書という専門職がいるということがある。専門職の職員は、専門性を市民の皆様に還元するという役割を担っている。その特徴を活かしたうえでどう連携していくのかという視点で考えていただくのも良いと思う。

○議長

平塚市が持っている社会教育資源は、図書館、博物館、美術館という社会教育施設だけではなく、そこにある資料やそこで働く職員もすべて資源である。地域で活用しようとしているものの多くは、人材の部分だろう。ここで地域が利用できるのは人材、資料になる

だろう。

○副議長

図の周りにあるそれぞれの館の説明書きは、事業の名前だけではなく内容を具体的に書いたほうが、応用してもらえと思う。

○議長

地域でどのように3館を活用したのかという事例を挙げたい。現在は直近で行った事業のみを取り上げているが、過去の実績も含めて挙げられると、地域の人も選択肢が増えると思う。

○委員

左上に記載されている「学社連携の地域活動」だけ異質ではないか。

○議長

「学社連携の地域活動」の欄には、図の中央部分にある、学校、公民館、各種団体からなる地域内での地域活動をまとめた。

○委員

図書館、博物館、美術館という施設に焦点を当てて検討しているため、「学社連携の地域活動」は視点が違う気がする。

例えば、「学社連携の地域活動」の欄にある金目中学校区教育力ネットの「通学合宿」は、図書館、博物館、美術館に関係しているのか。

○議長

必ずしも関係しているわけではない。しかし、現在は地域で単独にやっているものでも施設を利用するなどの工夫をすることもできるのではないか。

今は単独でやっているが、施設を利用するともっと違う展開が期待できるのではないか、という視点で「学社連携の地域活動」の欄を作成した。公民館や学校で活動をしていない市民からすると、地域で何をやっているのか分からないのではないかと思い掲載した。

○委員

図の配置を変えて、「学社連携の地域活動」と「美術館」の欄を交換すれば良いのではないか。

○事務局

図の左上の「学社連携の地域活動」についてだが、もともと1年前にテーマを決める際に、平塚市では社会教育施設である図書館、博物館、美術館の3館が充実しているので、3館の連携などについて検討してはどうかと話がなされた。毎年、3館コラボ事業を行っており、そのような連携した取り組みも入れられたら良い。

○副議長

大事なのは、実際にどのような活動をしたのかという具体例だと思う。具体例がいくつかあると分かりやすいし、自分の地域でもやってみようと思ってもらえるきっかけになる。

○議長

北図書館でも同じことをやっていた。図書館は市民から本を寄贈されることが多いが、うまく活用できないものも多い。そういったものを公民館まつりに出して市民に提供していた。

また、図書館の団体貸出のサービスを利用して、公民館で子育て支援の事業を行ったことがある。本読みをやっている団体にお願いして、子どもたちに読み聞かせをした。このような事業も、地域で社会教育施設を活用した事例になるだろう。

○委員

寺子屋事業の書道教室で読み聞かせを行ったことがある。本だけに限らず、他にも地域と社会教育施設との繋がりを持てるだろう。

○議長

過去に地域で社会教育施設を活用した事例があると他の場所でもやってみようとなりやすい。反対に、そのような事例がないと、繋がりを持っていない人はそうした発想になりにくいのではないだろうか。

○委員

実践事例があると、きっかけに繋がると思う。

○議長

図の配置については考えて直していきたいと思う。

○副議長

大きさはA4サイズで作成するのか。

○議長

A3で作成しようと考えている。

○副議長

どのくらいのサイズが手に取ってもらいやすいかを考えた。どこに置くのかにもよって、サイズは考えたほうが良いかもしれない。図書館であったら、小さいほうが手に取りやすいのではないかな。配布するのであれば、A4のほうが良い。

○議長

A3とA4両サイズ作っても良いと思う。

○委員

社会教育委員になって知ったことがたくさんある。知らないことが多いため、発信していくことの大切さを感じた。先ほどコーディネーターの話もあったが、「こういうことをやりたいけどどうしたら良いのか」などといった相談を受けられるような場所があると良いと思う。

今年の夏休みは、金旭中学校の美術部が美術館の事業に参加させてもらった。初めての参加だったが、子どもたちがすごく喜んでいたので見て、もっと多くの人に様々な事業について知ってもらいたいと感じた。

○議長

昨年度の具体的な地域での社会教育施設の活用事例を知りたい。

資料に挙げる事例として、直近のものだけではなくても活用事例として挙げられそうな事業を教えてください。

○副議長

例えば、博物館の「講師派遣等要請事業」の具体的な内容を知りたい。

○事務局

令和6年度の実施事業をまとめたものを出すことはできる。

○議長

今までのすべての事業というわけではなく、資料を作成するうえで具体例として挙げられそうな事業について教えてほしい。

○事務局

美術館に関しては、事業の多くは経年で続けているものであるため、そういったものを除いて地域と連携を取って行った事業があるかどうか調べて提出する。

○事務局

図書館は過去の事業実績をまとめて提出する。

○議長

次回までに3館の過去の事業と、その他にも取り上げてほしい事業があれば挙げていただきたい。

3館の皆様に、地域と関わっている中で課題があれば教えてください。

○事務局

美術館で地域に出かけて行う事業は主にスクールプログラムであり、学校に限定されている。

地域の人たちとの関わりについては、施設を利用していただく「市民アートギャラリー」のみである。これまで議論していたような地域との関わりはなく、それについて今までとは違った視点で考えていく必要があるという課題を見つけられた。これは、議論をしていくうえで見つけれられた課題である。

○事務局

図書館では、子どもに限った話ではなく読書離れが進んでいることが課題である。地域の読書環境を整えることも一つの手法だと考える。そういったなかで、図書館だけではなく、学校や公民館にも図書室があるのでそのような地域の資源も活用しながら、地域との連携について検討していきたい。

○事務局

博物館は、地域から講演や体験学習の依頼を受けている。昨年度は70件近くの依頼があった。それとは別に、学校や地域から博物館に来ていただくような事業もやっている。これについて、事業数が多すぎるという課題があるように感じる。本来学芸員がやるべき仕事である調査や研究がかなり制限されており、学芸員が疲弊しているという現状である。プログラムの回数を増やすことは現状では難しい。

しかし、学校や地域からの要望は大切であり、なるべく受けるようにはしている。

○議長

そのような3館の課題を資料に挙げていく必要があると思う。  
最後に、これまでの議論について一言ずついただきたい。

○委員

社会教育というものを広く知ってもらえるように発信できたら良いと思う。  
また、先ほど美術館と地域との関わりが学校に限られているとあったが、高齢者向けの事業もあると良いと思った。

○委員

児童生徒も大切だが、退職した年配者の人生をより豊かにするような事業を提供することもできると思う。

○委員

言葉が固い印象を受けたので、具体的な説明などがあると分かりやすくなると思う。社会教育に関わっていない市民だとこの資料を手にとることがないかもしれないため、さらに多くの施設で見られるようになると良いだろう。その際にはわかりやすい言葉で発信することが大切だと思う。

○委員

この資料が完成する頃から、休館などで入れない施設が多く出てくる。その中でも、社会教育施設を活用してもらうために、縮小して代替するだけではなく、期間限定だからこそのこと、コンパクトな環境の中でしかできないことなど、消極的な意味での代替ではなく積極的な意味を持った代替期間にできると良いだろう。

○委員

博物館、美術館は交通の便が良くなく、なかなか行きにくい。招待などがあると子どもも大人も行きやすくなるのではないか。また、外に出られない高齢者が出掛けるきっかけになれば良いと思う。

○副議長

夏休み期間であるため、各館が様々な催し物をやっていることが分かった。価値のある3館を多くの人に知っていただき、活用してもらうことが必要である。

○副議長

図書館数や蔵書数と健康寿命が相関しているという話がある。図書館数や蔵書数が多いほど健康で長生きする高齢者が多いということである。そのような話もあるので、社会教育の充実は健康に関わっていると思う。

○議長

皆さんに意見を出していただいたので、次回は具体的にまとめたい。また、それぞれの館で事例を挙げていただき、委員の皆さんにも他に事例があるか探してきていただきたい。

---

### (3) 次回の会議予定の確認

第7回会議日程 令和7年10月24日（金）15時から  
青少年会館2階集会室

### 3. その他

事務局から第56回関東甲信越静社会教育研究大会の出欠について確認した。

以 上